離散数学第3回

集合と論理 (3): 論理を使った証明 (第1ステップ)

岡本 吉央 okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2013年4月30日

最終更新: 2013年5月2日 02:06

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 1 / 35

- ❶ 恒真命題
- 2 同値変形:真理値表を使わない恒真性の証明
- ③ 述語論理における恒真性の証明
- ₫ 今日のまとめ

離散数学 (3)

2013年4月30日 3/35

恒真命題に対する記法

含意を含む恒真命題

「 $P \rightarrow Q$ 」が恒真であるとき,これを次のように書く

$$P \Rightarrow Q$$

- 「 $P\Rightarrow Q$ 」において,次の用語を使うことがある
 - Pは「Qが成り立つための十分条件」Qは「Pが成り立つための必要条件」

同値を含む恒真命題

「 $P \leftrightarrow Q$ 」が恒真であるとき,これを次のように書く

$$P \Leftrightarrow Q$$

- 「 $P \Leftrightarrow Q$ 」において,次の用語を使うことがある
 - ▶ P を「Q が成り立つための必要十分条件」
 - Qを「Pが成り立つための必要十分条件」

離散数学 (3)

2013年4月30日 5/35

重要な恒真命題:同値の書換

同値の書換

任意の命題変数 P,Q に対して,次が成り立つ

$$P \leftrightarrow Q \Leftrightarrow (P \rightarrow Q) \land (Q \rightarrow P)$$

証明:次の真理値表の正しさによる.

今日の概要

今日の目標

▶ 命題の恒真性を証明する2つの方法を理解する ▶ 真理値表による証明

▶ 同値変形による証明

▶ 重要な恒真式を使って同値変形による証明ができるようになる

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 2 / 35

恒真命題

「恒真命題 (トートロジー) とは?

命題変数にどのような真理値が割り当てられても、 常に真となる命題論理式

例: $P \rightarrow (Q \rightarrow P)$ 」は恒真命題

離散数学 (3)

2013 年 4 月 30 日 4 / 35

重要な恒真命題: 含意の書換

含意の書換

任意の命題変数 P,Q に対して,次が成り立つ

$$P \rightarrow Q \Leftrightarrow \neg P \lor Q$$

証明:次の真理値表の正しさによる.

Ρ	Q	$\neg P$	P o Q	$\neg P \lor Q$	$(P \to Q) \leftrightarrow (\neg P \lor Q)$
Т	Т	F	Т	Т	T
Т	F	F	F	F	Т
F	Т	Т	Т	Т	Т
F	F	Т	Т	Т	Т

証明終了のしるし

2013年4月30日 6/35

重要な恒真命題:排中法則

排中法則

命題変数 P に対して,次の命題論理式は恒真命題

$$P \vee \neg$$

証明:次の真理値表の正しさによる.

$$\begin{array}{c|c|c|c} P & \neg P & P \lor \neg P \\ \hline T & F & T \\ F & T & T \\ \end{array}$$

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 7 / 35

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 8 / 35

重要な恒真命題:ド・モルガンの法則

ド・モルガンの法則

命題変数 P,Q に対して,次が成り立つ

$$\neg(P \lor Q) \Leftrightarrow \neg P \land \neg Q$$
$$\neg(P \land Q) \Leftrightarrow \neg P \lor \neg Q$$

証明:次の真理値表の正しさによる.

Ρ	Q	$\neg P$	$\neg Q$	$\neg P \land \neg Q$	$P \vee Q$	$\neg (P \lor Q)$	$(\neg(P \lor Q)) \leftrightarrow (\neg P \land \neg Q)$
Т	Т	F	F	F	Т	F	Т
Т	F	F	Т	F	Т	F	T
T F	Т	Т	F	F	T F	F	T
F	F	Т	Т	F F T	F	Т	Т
P	Q	$\neg P$	$\neg Q$	$\neg P \lor \neg Q$	$P \wedge Q$	$\neg (P \land Q)$	$(\neg(P \land Q)) \leftrightarrow (\neg P \lor \neg Q)$
Т	Q	F	¬Q F	¬ <i>P</i> ∨ ¬ <i>Q</i> F	<i>P</i> ∧ <i>Q</i>	¬(<i>P</i> ∧ <i>Q</i>)	$ \begin{array}{c} (\neg (P \land Q)) \leftrightarrow (\neg P \lor \neg Q) \\ \hline T \end{array} $
Т	Q T F	¬P F F	F	F T	T F	¬(<i>P</i> ∧ <i>Q</i>) F T	$ \begin{array}{c} (\neg(P \land Q)) \leftrightarrow (\neg P \lor \neg Q) \\ \hline T \\ T \end{array} $
P T T F	Q T F T	F	F	¬P∨¬Q F T T T	Т	¬(P ∧ Q) F T T	$ \begin{array}{c} (\neg(P \land Q)) \leftrightarrow (\neg P \lor \neg Q) \\ \hline T \\ T \\ T \end{array} $

離散数学 (3)

2013年4月30日 9/35

 \Box

重要な恒真命題:対偶法則

対偶法則

任意の命題変数 P,Q に対して,次が成り立つ

$$P \rightarrow Q \Leftrightarrow \neg Q \rightarrow \neg P$$

証明:次の真理値表の正しさによる.

Ρ	Q	P o Q	$\neg Q$	$\neg P$	$\neg Q \rightarrow \neg P$	$(P \rightarrow Q) \leftrightarrow (\neg Q \rightarrow \neg P)$
Т	Т	Т	F	F	Т	Т
Т	F	F	Т	F	F	Т
F	Т	Т	F	Т	T	Т
F	F	Т	Т	Т	T F T T	Т
		'	•	'	•	•

離散数学 (3)

2013年4月30日 11/35

恒真命題いろいる (2)

分配法則

$$(P \lor Q) \land R \Leftrightarrow (P \land R) \lor (Q \land R)$$

$$(P \wedge Q) \vee R \Leftrightarrow (P \vee R) \wedge (Q \vee R)$$

定数の除去・導入

 $P \wedge \mathsf{T} \Leftrightarrow P$

 $P \vee F \Leftrightarrow P$

変数の除去・導入

 $P \wedge \mathsf{F} \Leftrightarrow \mathsf{F}$

 $P \vee \mathsf{T} \Leftrightarrow \mathsf{T}$

含意の合成

$$(P \rightarrow Q) \land (P \rightarrow R) \Rightarrow P \rightarrow (Q \land R)$$

三段論法

$$(P \rightarrow Q) \land (Q \rightarrow R) \Rightarrow P \rightarrow R$$

離散数学 (3)

2013年4月30日 13/35

司値変形:直理値表を使わない恒直性の証明

- ❶ 恒真命題
- 2 同値変形:真理値表を使わない恒真性の証明
- ③ 述語論理における恒真性の証明
- △ 今日のまとめ

重要な恒真命題:モードゥス・ポネンス

モードゥス・ポネンス

任意の命題変数 P,Q に対して,次が成り立つ

$$P \wedge (P \rightarrow Q) \Rightarrow Q$$

証明:次の真理値表の正しさによる.

Ρ	Q	$P \rightarrow Q$	$P \wedge (P \rightarrow Q)$	$(P \wedge (P \rightarrow Q)) \rightarrow Q$
Т	Т	Т	T	Т
Т	F	F	F	Т
F	Т	Т	F	Т
F	F	Т	F	Т

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 10 / 35

恒真命題いるいる (1)

幂等法則

 $P \wedge P \Leftrightarrow P$

 $P \lor P \Leftrightarrow P$

 $P \wedge Q \Leftrightarrow Q \wedge P$ $P \vee Q \Leftrightarrow Q \vee P$

吸収法則

 $(P \land Q) \lor P \Leftrightarrow P$

 $(P \lor Q) \land P \Leftrightarrow P$

二重否定の除去

$$P \Leftrightarrow \neg(\neg P)$$

結合法則

交換法則

 $(P \land Q) \land R \Leftrightarrow P \land (Q \land R)$

 $(P \lor Q) \lor R \Leftrightarrow P \lor (Q \lor R)$

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 12 / 35

恒真命題の利用法

- ▶ 恒真命題を使って,命題論理式を簡略化できる (見た目を単純にできる)
- ▶ 恒真命題を使って,数学的な証明ができる

これらについては次に扱う...

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 14 / 35

同値変形:真理値表を使わない恒真性の証明

論理式の恒真性

| 真理値表による恒真性の証明 |

- ▶ 命題論理式:できる
- ▶ 述語論理式:できないかもしれない(「無限」に対処できない)

同値変形による恒真性の証明

▶ 命題論理式:できるかもしれない

▶ 述語論理式:できるかもしれない

しかし,とても役に立つ

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 15 / 35

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 16 / 35

次が成り立つことを証明したい

$$P \wedge (Q \wedge R) \Leftrightarrow (P \wedge Q) \wedge (P \wedge R)$$

先ほどの「重要な恒真命題」と「恒真命題いろいろ」を見ながら

$$P \wedge (Q \wedge R) \Leftrightarrow (P \wedge P) \wedge (Q \wedge R)$$
 (\wedge の冪等法則) $\Leftrightarrow P \wedge (P \wedge (Q \wedge R))$ (\wedge の結合法則) $\Leftrightarrow P \wedge ((P \wedge Q) \wedge R)$ (\wedge の結合法則) $\Leftrightarrow (P \wedge (P \wedge Q)) \wedge R$ (\wedge の結合法則) $\Leftrightarrow ((P \wedge Q) \wedge P) \wedge R$ (\wedge の交換法則) $\Leftrightarrow (P \wedge Q) \wedge (P \wedge R)$ (\wedge の結合法則)

П

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 17 / 35

同値変形:真理値表を使わない恒真性の証明

同値変形とは?: 例2

次が成り立つことを証明したい

$$(P \land Q) \rightarrow R \Leftrightarrow P \rightarrow (Q \rightarrow R)$$

先ほどの「重要な恒真命題」と「恒真命題いろいろ」を見ながら

$$(P \land Q) \rightarrow R \Leftrightarrow \neg (P \land Q) \lor R$$
 (含意の書換)
$$\Leftrightarrow (\neg P \lor \neg Q) \lor R \qquad (F \cdot モルガンの法則)$$

$$\Leftrightarrow \neg P \lor (\neg Q \lor R) \qquad (\lor の結合法則)$$

$$\Leftrightarrow \neg P \lor (Q \rightarrow R) \qquad (含意の書換)$$

$$\Leftrightarrow P \rightarrow (Q \rightarrow R) \qquad (含意の書換)$$

離散数学 (3)

2013 年 4 月 30 日 19 / 35

論理式の恒真性 (再掲)

真理値表による恒真性の証明

▶ 命題論理式:できる

▶ 述語論理式:できないかもしれない(「無限」に対処できない)

同値変形による恒真性の証明

▶ 命題論理式:できるかもしれない ▶ 述語論理式:できるかもしれない

しかし、とても役に立つ

述語論理式に対して同値変形を行うためには, 述語論理における「重要な恒真式」を知る必要がある

岡本 吉央 (電通大)

離散数学(3) 2013年4月30日 21/35

述語論理における恒直性の証明

述語論理における重要な恒真式 (1): 否定 【重要なので補足1】

「徳川将軍は全員男である」の否定は?

? 徳川将軍は全員男でない

(分かりにくい日本語)

× 徳川将軍は誰も男でない 徳川将軍の誰かは男でない

「すべての人は自転車に乗れる」の否定は?

× すべての人は自転車に乗れない ある人は自転車に乗れない 自転車に乗れない人がいる

∀の否定

 $\neg(\forall \ x \ (P(x)) \Leftrightarrow \exists \ x \ (\neg P(x))$

]値変形:真理値表を使わない恒真性の証明

同値変形とは?

同値変形とは?

論理式の一部として現れる論理式をそれと同値な論理式で 置き換えること

先ほどの「重要な恒真命題」と「恒真命題いろいろ」の同値性が使える!

▶ 含意の書換,同値の書換

ド・モルガンの法則

▶ 二重否定の除去 ▶ (吸収法則)

▶ 排中法則

▶ 交換法則,結合法則

対偶法則

分配法則

冪等法則

定数 / 変数の除去・導入

重要な性質

同値変形によって恒真性は保たれる

岡本 吉央 (電通大)

離散数学 (3)

2013年4月30日 18/35

目次

- 恒直命題
- ② 同値変形:真理値表を使わない恒真性の証明
- ③ 述語論理における恒真性の証明
- △ 今日のまとめ

離散数学 (3)

2013年4月30日 20/35

述語論理における重要な恒真式(1):否定

∀の否定,∃の否定(重要!)

任意の議論領域 D と命題関数 P(x) に対して,次が成り立つ

$$\neg(\forall \ x \in D \ (P(x))) \Leftrightarrow \exists \ x \in D \ (\neg P(x))$$

$$\neg(\exists \ x \in D \ (P(x))) \Leftrightarrow \forall \ x \in D \ (\neg P(x))$$

 $D = \{a, b\}$ のときの証明: \forall と \exists の定義を思い出し,書き直すと

$$\neg (P(a) \land P(b)) \Leftrightarrow \neg P(a) \lor \neg P(b)$$
$$\neg (P(a) \lor P(b)) \Leftrightarrow \neg P(a) \land \neg P(b)$$

これらは命題論理におけるド・モルガンの法則と同じ

注意

D が無限集合の場合の証明は,この授業の範囲を越えるのでやらない

離散数学 (3)

2013 年 4 月 30 日 22 / 35

述語論理における恒真性の証明

述語論理における重要な恒真式 (1): 否定 【重要なので補足2】

- 「徳川将軍は誰か70年以上生きた」の否定は?
- × 徳川将軍は誰か70年以上生きていない 徳川将軍は誰も70年以上生きていない
- 「ある人は UFO に乗った」の否定は?
- × ある人は UFO に乗っていない
- ? すべての人は UFO に乗っていない どの人も UFO に乗っていない

(分かりにくい日本語)

∃の否定

 $\neg(\exists x (P(x)) \Leftrightarrow \forall x (\neg P(x))$

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 23 / 35

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 24 / 35

述語論理における重要な恒真式 (2): 分配法則

∀の分配法則,∃の分配法則

任意の議論領域 D と命題関数 P(x) , Q(x) に対して , 次が成り立つ

 $(\forall \ x \in D \ (P(x))) \land (\forall \ x \in D \ (Q(x))) \ \Leftrightarrow \ \forall \ x \in D \ (P(x) \land Q(x))$

 $(\exists x \in D (P(x))) \lor (\exists x \in D (Q(x))) \Leftrightarrow \exists x \in D (P(x) \lor Q(x))$

 $D = \{a, b\}$ のときの証明:演習問題

注意

次は恒真ではない

 $(\forall x \in D (P(x))) \lor (\forall x \in D (Q(x))) \stackrel{?}{\Leftrightarrow} \forall x \in D (P(x) \lor Q(x))$ $(\exists \ x \in D \ (P(x))) \land (\exists \ x \in D \ (Q(x))) \quad \stackrel{?}{\Leftrightarrow} \quad \exists \ x \in D \ (P(x) \land Q(x))$

離散数学 (3)

2013 年 4 月 30 日 25 / 35

述語論理における恒真性の証明

述語論理における重要な恒真式 (4): 導入

∀の導入,∃の導入

任意の議論領域 D と命題 P に対して,次が成り立つ

 $P \Leftrightarrow \forall x \in D(P)$

 $P \Leftrightarrow \exists x \in D(P)$

注:Pの中にxは自由変数として現れない

 $D = \{a, b\}$ のときの証明:演習問題

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 27 / 35

述語論理における重要な恒真式 (6): 束縛変数の変更

束縛変数の変更

任意の議論領域 D と命題関数 P(x) に対して,次が成り立つ

 $\forall x \in D (P(x)) \Leftrightarrow \forall y \in D (P(y))$ $\exists x \in D (P(x)) \Leftrightarrow \exists y \in D (P(y))$

注:P(x)の中にyは自由変数として現れず, P(y) の中に x は自由変数として現れない

この正しさはすぐに分かる

積分(など)でも同じような恒等式がある

 $\int_a^b f(x) \mathrm{d}x = \int_a^b f(y) \mathrm{d}y$

2013年4月30日 29/35

同値変形による恒真性の証明:例2

次が成り立つことを証明したい

任意の命題関数 P(x) と命題変数 Q に対して

 $\forall x (P(x)) \rightarrow Q \Leftrightarrow \exists x (P(x) \rightarrow Q)$

 $\forall x (P(x)) \rightarrow Q \Leftrightarrow \neg(\forall x (P(x))) \lor Q$ (含意の書換) $\Leftrightarrow \exists x (\neg P(x)) \lor Q (\forall の否定)$ $\Leftrightarrow \exists x (\neg P(x) \lor Q)$ (\exists の分配法則)

> $\Leftrightarrow \exists x (P(x) \to Q)$ (含意の書換)

> > П

述語論理における重要な恒真式 (3):交換法則

任意の議論領域 D と命題関数 P(x,y) に対して,次が成り立つ

 $\forall x \in D \ (\forall y \in D \ (P(x,y))) \Leftrightarrow \forall y \in D \ (\forall x \in D \ (P(x,y)))$ $\exists \ x \in D \ (\exists \ y \in D \ (P(x,y))) \ \Leftrightarrow \ \exists \ y \in D \ (\exists \ x \in D \ (P(x,y)))$

 $D = \{a, b\}$ のときの証明:演習問題

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 26 / 35

述語論理における恒真性の証明

述語論理における重要な恒真式 (5): 分配法則

∀の分配法則,∃の分配法則

任意の議論領域 D と命題関数 P(x) , 命題 Q に対して , 次が成り立つ

 $\forall x \in D (P(x)) \lor Q \Leftrightarrow \forall x \in D (P(x) \lor Q)$ $\exists x \in D (P(x)) \land Q \Leftrightarrow \exists x \in D (P(x) \land Q)$

注:Qの中にxは自由変数として現れない

 $D = \{a, b\}$ のときの証明:演習問題

3ページ前の分配法則との違いに注意

離散数学 (3)

2013 年 4 月 30 日 28 / 35

同値変形による恒真性の証明:例1

次が成り立つことを証明したい

 $\neg(\forall \ x \ (P(x) \to Q(x))) \Leftrightarrow \exists \ x \ (P(x) \land \neg Q(x))$

 $\neg(\forall \times (P(x) \to Q(x))) \Leftrightarrow \neg(\forall \times (\neg P(x) \lor Q(x)))$ (含意の書換) $\Leftrightarrow \exists x (\neg(\neg P(x) \lor Q(x))) (\forall の否定)$

 $\Leftrightarrow \exists x (\neg \neg P(x) \land \neg Q(x))$ (ド・モルガンの法則)

 $\Leftrightarrow \exists x (P(x) \land \neg Q(x))$ (二重否定の除去)

離散数学(3) 2013年4月30日 30/35

⋒ 恒真命題

② 同値変形:真理値表を使わない恒真性の証明

③ 述語論理における恒真性の証明

4 今日のまとめ

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 31 / 35

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 32 / 35

今日のまとめ

今日のまとめ

今日の目標

- ▶ 命題の恒真性を証明する2つの方法を理解する
 - ▶ 真理値表による証明
 - ▶ 同値変形による証明

岡本 吉央 (電通大)

▶ 重要な恒真式を使って同値変形による証明ができるようになる

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 33 / 35

注意:「重要な恒真式」を覚える必要はない

証明:補足

疑問?: 恒真性の証明

なぜ述語論理の論理式は,その恒真性を真理値表で証明できないのか?

これにちゃんと答えるためには「シンタックス」と「セマンティクス」 など論理学の基盤・重要概念を学ぶ必要がある.

興味のある人は次のことばを調べてみる

- ▶ シンタックス (統語論) とセマンティクス (意味論)
- ▶ 述語論理における「解釈」
- ▶ 証明論とモデル理論

シンタックスとセマンティクスは自然言語処理,人工知能においても 重要な概念

これは「論理学」の授業ではないので,これ以上深く立ち入らない

岡本 吉央 (電通大)

離散数学 (3) 2013 年 4 月 30 日 34 / 35